



むらさき会だより

山村学園創立80周年記念

No.7

平成15年9月1日

山村学園むらさき会



校歌

一、富士の高嶺の白妙を
雲のあなたに仰ぎつゝ、
学びの道を踏みわけて
やがて極めんいただきを
名は山村よ我等の学舎

二、清き流れの大利根や
行く手は遠く広くとも
教えの海に漕ぎ出でて
底の真珠を探りなん
名は山村よ我等の学舎

三、初雁おとのお武蔵野に
紫におう藤の花
理想を高くかざしつゝ、
いざや進まん諸共に
名は山村よ我等の学舎

ご挨拶

山村学園むらさき会

会長 田中久子

むらさき会会員の皆様、そして新会員となられた皆様、ご機嫌いかがですか。同窓会改め、むらさき会として発足し、多くの会員に会の存在、活動を知っていただけるようにと、むらさき会だより第七号の発行となりました。むらさき会だよりを通じ、会員同志の親睦を深めたいと思います。また、快適な環境の学園の発展を共によろこび、



山村学園 理事長

山村 寛先生

むらさき会の皆様こんにちは。山村学園も創立八十周年を迎えまして、本年十一月八日には記念祝賀会を行う予定で準備を進めております。

今回は山村学園の基礎を築きました山村ゆみよの父 忠吉、母はるのの生前のことについて述べたいと思います。

祖父は厳格な人で、例えば食事の時には正座をして食べる事、足をくずしたり、あぐらをかいて食べてはいけません。

また、今みんなが食べているお米は、農家の人達が汗をながして一生懸命に働いて収穫したものであるのです。茶碗の中に一粒でも残してはいけません、そして農家の人達のおかげで米のご

創立八十周年を迎える母校の伝統を誇りに思います。一人でも多くの人に愛読され母校との交流、会員との交流に役立つことが出来れば、大変うれしく思います。

発行に際しまして、理事長先生はじめ、諸先生方、会員の皆様にご寄稿いただきましたことに厚く御礼申し上げます。

そして、私たちむらさき会の運営に長いことご尽力いただきました、國田正雄先生のご逝去されました。ご冥福を御祈り申し上げます。

飯を食べることが出来る事にたいして感謝の気持ちを持たせてはいけぬと話されました。私は今でも家で食事をする時、また外食の時でもご飯つぶを残さないように心掛けております。

昭和二十六年に坂戸市千代田に当時の山村女子高等学校の校舎が落成した時に、その北側に住宅を建て、祖父が住むようになりました。

晴れた日には畑を耕し、雨の日には読書、特に日本の歴史上の人物の伝記を好んで読み、晴耕雨読の生活を送っております。

また俳句は「悟道」の俳号をもち、季節の句や生活に関係する句を多く読んでおります。そのなかの一句が現在の山村国際高等学校の正門を入って右側の碑に祖父のレリーフと共に刻まれています。

そつと押す昼寝する子の乳母車
(昼寝する子は私です)

また私の長男が生まれた時には、曾孫を見ることが出来たと喜んでいました。

祖母は温厚な性格で、ゆみよが学校の仕事に専念できるようにと考えて、ノートに毎日の支出をひらがなで書き込み、月末には大きな算盤を使って、その月の合計金額を記入しておりました。

また、戦争中は物資が不足し特に衣料関係は手に入れるのが困難でしたので、靴下の爪先や踵が破れたのは丁寧に繕ってくれました。家族のはく足袋は型紙をあてて手縫いでこしらえたりして儉約につとめました。

追伸

前回の会報に祖母の両親のことについて書きましたが甲府市の親戚の方が色々調べてくれました。中巨摩郡白根町の大日庵というお寺に立派な墓石が建っているとの報告がありました。ゆみよが平成五年十二月に墓参した時の塔婆も残っていたとの事。

「学校はわが命」の年譜には大蔵寺とありますが記憶違いだと思います。」

祖母の両親の子供のなかの一人(祖母からみると兄にあたります)の方の孫が健在で現在東京練馬区に住んでいる事も判りました。機会をみて訪問し昔話を聞いたり、また中込家のお墓にも行ってお線香を上げさせていたただきたいと思っております。

第三十一回 同窓会・総会を終えて

むらさき会総会に出席して

豊泉 清子(旧姓 奥富)

学校を卒業して四十年余、来年は還暦……。同窓会の役員としてお世話になっております。

同級生とは一年に数回お会いしておりますが、一回は同窓会の総会にあてております。先輩又先生方ともなつかしいお話が出来、毎年楽しみにしております。

学校を離れてしましますと、学校の様子もぜんぜん分からないけれども総会に出席することで後輩達も一生懸命がんばっている様子が伺え、自分達のことのようにうれしく思え、両手をあげて応援したい気持ちになります。

今年校長先生の墓まいりの時に同窓会でお世話になった國田先生にもお線香をあげさせていただきました。ご冥福お祈りいたします。

帰りは菓子屋横丁を友達とのんびり散策して思い出に残る楽しい一日でした。

来年のむらさき会総会は

五月二十日(日)

十時開会

会場 川越プリンスホテル

むらさき会に出席して

室岡 ティ子

開校八十年、おめでとう御座居ます。先生方をはじめ、なつかしい友人にお会い出来まして、たいへん楽しい一日を、過ごすことができました。私達の同期生は七人出席しました。二次会では、学生時代を思い出して、おしゃべりに花が咲きました。参加された方の中でお年を召された方を、見かけましたので、声をかけたところ、八十三才でいらっしやるとの事、若々しく、しっかりされた方でした。昭和十年の卒業生と申されていました。私達は、



楽しい一日でした。昭和34年卒業生

昭和三十四年の卒業です。還暦を過ぎたからと言って、年を取ってはいられません。先輩達を見習って、あと十年、二十年と出席したいと思っております。御立派な総会だったのに、参加者が、少ないような気がして、ちよつと残念に思いました。来年は、もっと友人、姉妹に声をかけようと、思っております。皆様も、健康に気をつけて、幸せな毎日をお過ごし下さいませ。

良き先輩にさそわれて

内沼 孝子(旧姓 浅見)

七年前頃に同学年の友人を誘い、初めて総会に出席させていただきました。裁縫手芸伝習所の卒業生である伯母に出会い、びっくりしました。伯母は以前から総会に出席していたようですが、今回で最後の出席にするとの事でした。伯母からバトンタッチした気持ちで出席させていただきました。

今年の総会には、友人が出席できなかったのですが、会長さんはじめ諸先輩の温かいお人柄に誘われて、一人出席させていただきました。思ったとおりに楽しいひとときとなりました。

校長先生、教頭先生方が私たちの母校を更に大きく、より良く育てていただいている意気込みが伝わって来ました。あらためて山村学園の卒業生で良かったな、と思いました。私の姉も山村の卒業生であり、伯母と私、三人がぬみよ先生にお世話になりました。ぬみよ先生のお顔を思い浮かべながら校

歌を口ずさんでいる自分がいました。むらさき会がますます母校のために力添え出来る良い会となっている事に役員さん方のすばらしさを感じました。ありがとうございました。そして感謝申し上げます。

松本 登久子(旧姓 福岡)

八十周年お目出度う御座居ます。母校の大きな発展に心からお祝い申し上げます。私の学生の頃は学校は喜多院の門前に有りました。校庭がなく東照宮の前庭で朝礼、ラジオ体操等、休み時間になりますと喜多院の境内でドッジボール、木蔭で本を読んだり、人馴れした鳩と遊んだり、今と違い人通りの少ない境内は静かでした。それも春桜の花の咲く頃はお花見の人達で窓の外は賑やかです。外へは出られません。そんな時何をして居たかは忘れませんでした。けれど、それなりに楽しい青春でした。

卒業の時無欠席の賞状と金文字で学校の名前の入った文箱を頂きました。今所々文字も消えかかって居りますけれど大切に持って居ります。和裁洋裁手芸学校で習得した事がどんなに役立つ事かと痛感して居りました。終戦後物の不足して居る時代がありました。娘が小学校に入学の時等、私のセル(今はウールと申しませうか)着物でワンピースそして手下げ等作りました。洋服はオーダー?なのでびったりでした。その娘も只今五十九才、私も元氣でお茶、謡曲、そして車でドライブ等、幸せを感じ乍ら毎日を

過ごして居ります。

十年一昔と申しますがもつともっと遠い日の昔を書きました。むらさき会の出席を楽しみにして居ります。会の発展を御祈りして居ります。

吉沢 幸江 (旧姓 室岡)

先日、総会の時は、大変お世話様になりました。久しぶりに先生や友達と会えて、楽しい時間を過ごす事ができました。私の姉妹は、三人も出席させて戴きましてありがとうございます。私の姉四人、妹二人と、皆、山村学園に、お世話になりました。

諸先生方や、親に感謝しております。私の姉妹は、一番下の妹をのぞいては皆、農家の長男へ嫁ぎました。そして上から三人の姉三組は金婚式を迎える事が出来ました。妹達もそれに見習わなくては、と思います。

又、三人も三世代そろった家庭を経験しました。今、私の家がそうです。せわしない野菜の荷作りにおわれながらも、張りあいのある毎日を、過ごしております。

来年も又、友達とさそいあって、出席させて戴きたいと思っております。



藤野さん
アトラクションでの日舞、素敵でした。

宇田川 政子 (旧姓 渡辺)

先日、同窓会の皆様方と、養寿院、山村家の墓参に参加させていただきました。山の家を御祈り申し上げます。

御冥福をお祈り申し上げ、山村学園創立八十周年の歩みを、心からお祝い申し上げます。

人間だれでも年とともに成長いたしますが、川越高等家政女学校の個性的かつ経験豊かな先生方のご指導に恵まれ、仲間との友情や温情、その他多くの助力に支えられてきたこと、そして激動の時代に協力してくれた両親へ、深く感謝いたしております。

さて、思い出の糸をいくつかたぐつてみました。

私が通っていた中学校の先生より、父親が、山村学園への入学を、勧められたにもかかわらず、「女学生らしい支度は一切してやらないけれど、どうしても行きたいのか!」と申しました。そこで、「どうしても行きたい!!」と即答しました。母が、病弱でしたので前途多難とは、思っておりましたが、羽二重を自分で黒に染め、手縫いをしてセーラー服、母の手作りのズボン、そして下駄履きと、まさに、一般の女学生とは、異なる姿の通学でした。駅まで、約四キロメートルの道のりを歩き、教材の荷物が多く、混雑を避けるため、早目の電車で登校していました。

私たち、三年B組は、七十三名と思いましたが、離れの教室で、三人掛の長い机と、椅子で学びました。

良き友との、巡り会いの中で、耐えること、譲り合う精神が、培われました。今では、その友とのふれあいが、懐しく思い出されます。

風邪をひいた時のことです。勉強がおくれるのが嫌で、無理をしまして、結局、欠席をする羽目になりました。

来週からは通学できると思っております。矢先に、級友の方四人が、見舞つて下さったのです。やはり、遠方から通学しておられるにもかかわらず、不便極まりないところまで、いらしていただき、本当に頭の下がる思いの優しさで、温もりを肌で感じ、感謝でいっぱいでした。

上級生とのソフトボール試合は、また、格別のものでした。上級生の打ったボールが、下級生を物ともせず、頭上を「ビューン」と、音を立てて通り過ぎました。楽しいというよりは、恐ろしさの方が、強かったように思います。

基礎部分縫い、早縫い競争、厳しい授業の中にも、自由教材の時には、創作意欲を掻き立てるような楽しさがありました。新しい布地こそ、用意できませんでしたが、自分の着ていた寝間着(袴)をほどき、洗い張りをして、仕立直し、提出したこともありました。また、母が、知人より、新品の布をいただいできた時は、緊張のあまり、なかなか手をつけられないこともございました。

本科二年になり、当時、ゆみよ校長先生の授業がございました。内容は、「赤ちゃんの育児について」と記憶し

ております。研究するのに、ちょうどよい月齢の男の赤ちゃんが、滞在さんの所にいらつしやるのがわかり、早速伺いました。この足、この目、この耳で、体験を通して、学ぶ大切さを実感し、最も尊敬する校長先生の授業とあって、張り切ったものです。

卒業製作は、「背広」に挑戦。内田先生(旧姓)のご指導のもと、大変、満足な仕上がりました。当時一番喜んでくれたのは、父でした。一生懸命、努力した甲斐がございました。

お世話になりました小学校より、親を通して教員のお話しがございました。このこと、私の卒業を待って、東京へ戻ることになっておりましたので遠慮しましたと、後日、聞かされました。「自慢は智恵の行きどまり」とか申しますが、私の嬉しい思い出の一頁になっております。

これも偏に、山村学園の、貞淑、愛敬、質実の精選された教育の賜物と、これからも母校を大切に思い、感謝する心を生涯にわたり、持ち続けてまいります。

現在は、三人の娘も嫁ぎ、それぞれの孫達の成長を喜びとし、旅行好きな主人と、自然の美、人工の美、味わい、人との出会いを求める旅に興じ、穏やかなながらも、好奇心に満ちた日々を送っております。

山村学園の、今後のご発展、ご繁栄と、先生がたはじめ、皆さまがたの、ご健康とご多幸を祈りつつ筆を置きたいと思っております。

山村学園短期大学の 近況について



山村学園短期大学
学長 山村 健先生

月日の経つのは早いもので、本学がスタートして早くも十五年目を迎えます。当初は、国際文化科というひとつの学科として発足しましたが、以後本学をとりかこむ社会的諸条件のはげしい変化に積極的に対応すべく、学科編成、授業科目、学生指導態勢など、さまざまな分野にまたがって、幾多の改革を重ねてきました。その結果、当初の国際文化科は、心理・福祉コース及びビジネス・情報コースから成る「コミュニケーション学科」に改変されました。またさらに、これと合わせてあらたに、保育士の養成を目的とする「保育学科」が昨年度新設され、今年度は一学年と二学年がそろって大学の



雰囲気も大きく変わってきました。以上のコミュニケーション学科と保育学科ともに学科の改変・新設のさいに男女共学となったため、校名もかつての山村女子短期大学から山村学園短期大学と改めました。

この機会を借りて、とくに新設の保育学科の特色について触れさせていたきたいと思います。

皆さんもすでにご存じのことと思いますが、保育士とは、保育所に加えて、心身に障害をかかえたり、あるいは親の保護養育に欠ける子どもたちの福祉を守る諸々の児童福祉施設に幅広い職場が用意されている公認の資格であり、今後も社会的にますます需要が期待される専門職です。

本学では、新設のこの保育学科の理念を「骨太保育士」に求め、たくましく

く心優しい保育士の育成を目指しています。所定の保育実習や施設実習に加えて、本学独自のものとして、木工実習、里山保全実習、地球観測実習、動物飼育実習、和紙漉実習など多彩な体験実習の機会が用意されており、これらの実習を通して、学生たちが見ちがえるようにたくましく成長していく姿を目のあたりにするのは本当に楽しみです。

鳩山町の本学の近くにおいでの際は、ぜひお立ち寄りください。



山村学園創立80周年記念講演会のお知らせ

開催日時 2003年11月20日(木) 午後2時40分～4時10分

会場 山村学園短期大学 芙蓉館ホール

講演者 大谷 由里子さん

演題(仮) 「ひとを育てるヒント：
元気になる『吉本流』コーチング」

大谷由里子プロフィール

1963年2月21日

奈良県生まれ

1985年 京都ノートルダム女子大学を卒業

吉本興業株式会社に入社

1990年 フリーのプロデューサーとして独立

三星堂(現:クラヤ三星堂)の新規事業プロジェクトのスタッフに

1991年 企画会社: 有限会社プランニングオフィスSMSを設立

1994年 プランニングオフィスSMSを有限会社から株式会社に組織変更

同社・代表取締役社長に就任

2000年6月～2003年3月

吉本興業に契約プロデューサーとして復帰

〈著書〉「吉本興業 女マネージャー奮戦記

「そんなアホな!」

(扶桑社/朝日新聞社から文庫化)他

※講演会についてのお問い合わせは

山村学園短期大学 TEL 049-296-2000 まで

山村女子高等学校からの

メッセージ



山村女子高等学校
校長 下田宏吉先生

むらさき会の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。むらさき会の総会にお招きをいただき、皆様の生き生きとした姿と同窓会のまとまりのある素晴らしい姿を感じ、八十年の伝統を誇る本校の女子教育の良さを見る事ができました。

本校は、創立八十周年を迎え、その式典を十一月に予定しています。学園としての準備も着々と進んでいます。創立者の山村めみよ先生の歩んできた八十年の道は、決して平坦な道ばかりではなかったはずですが。

本校は、創立者の山村めみよ先生の教育理念である、これからの女性には家庭にあっても、社会にあっても、人間として精神的に自立した存在でなければならぬ。という考え方を基本とした女子教育を行ってきました。この理念をベースにして、私は、時代のニーズに対応する教育のために学校の改革を行いました。更に伝統ある商業科を廃止して、全て普通科に移行するなど、その成果は着実に挙がっています。

校長として、在校生に対して、二つのことをお願いしています。ひとつは、明るく楽しい学校生活を送ることです。学校生活のなかで、自分に打ち込める

ことを持つて欲しいということです。近年、部活動の活躍に目ざましいものがあり、どの部も素晴らしい成果を挙げています。なかでもバスケットボール部は県大会で優勝し、インターハイ長崎大会出場は本校はじまって以来の快挙であり、大会での活躍を切に希望しています。もうひとつは、志を高く持つて挑戦し、進路実現して欲しいということです。今年の卒業生の進路状況は担任の先生や進路指導部の先生方のきめ細かな指導によって全員の進路が決定しました。

それぞれの分野での素晴らしい成果は、生徒一人一人の努力はもとより、先生方の熱心な取り組み、同窓生のご支援の賜と感謝しています。

以上、本校の近況をお知らせをさせていただくとともに、創立八十周年を経て、又大きく変化させ、飛躍させていきたいと思えます。むらさき会の更なる発展を祈念いたします。

二十一世紀に飛躍する 山村女子高等学校

山村女子高等学校

教務部主任 吉野公昭先生

むらさき会会員の皆様には、ご清祥にてお過ごしのことと推察申し上げます。

さて、二十一世紀の大変革の時代にあつて新世紀にふさわしい学校の在り方が強く求められているこの時期に、八十年を迎えることは長い伝統と歴史、校風を持つ本校の節目となること

と確信しています。現在、教育改革が進められる中で、その目指すところは特色ある学校づくりであり、より一層の個性化が強調されています。こうした流れを受け止める形で、本校は「進学校として信頼され、生徒の多様な進路希望に応えられる学校」として生まれ変わるという学校ビジョンを十三年度に策定しました。もちろん、進学率を上げるだけでは魅力的な学校とは言えません。個の育成や、思いやりの心を育むといった人間性の陶冶を基盤としたものでなければなりません。

大切なものは八十年の伝統の中で、変わるもの、変えるべきもの。変わらなものの、変えてはならないものを明確にすることです。建学の精神の根幹は普遍的なものであるとしても、時代の変化に応じた解釈は必要だと思えます。

現在、このビジョンを達成するため、さまざまなプランを打ち出し取り組んでおります。十四年度より「二期制十学校週五日制+進学土曜ゼミ」という二十一世紀型の体制を導入し教育活動を推進しています。懸念された週五日制による授業時間の減少については、従来の三学期制を二学期制（四月一日～九月三十日を前期、十月一日～三月三十一日までを後期とする学期制）に変更し、一日を四十五分七校時制にすることで、年間約一六〇時間の授業時間を確保することで解消しました。さらに、九十分授業（二時間連続）、主要五教科の習熟度別授業やティームティーチングを実施するなど、より効

果的な指導方法により多様化する生徒のニーズに対応しています。特に、進学土曜ゼミは、大手予備校との連携のもと、予備校不要の進学体制の確立を目指したものであり、大きな特色となるものと確信しています。今年度は、代々木ゼミナール・早稲田予備校の講師をはじめ、優秀な講師陣のもと特進コースの生徒は全員、一般コースの生徒は希望制により、合わせて五四九名（五三％）の生徒が積極的に申し込み五十七講座が開講されています。

最後に、本校の近況について夏期休業を中心にご報告いたします。

学習面では、夏期特別進学ゼミを二十三日間、一日九十分授業を四コマ実施し、一年生二二九名、二年生一八九名、三年生一三四名が受講しております。夏休みにもかかわらず朝八時三十分から始まるゼミに真剣に取り組み生徒達の様子は、今後の進路実績に大きな期待が持てます。部活動では、バスケット部が県大会で優勝し、八月一日から長崎県で行われるインターハイに出場。バトン部・ダンス部は八月八日から国立代々木第二体育館で行われる日本大会に出場。また、バレー部は七月二十三日からの関東私学選手権大会に出場するなど暑い夏を吹き飛ばす活躍がみられます。

今年度秋には同窓生のご協力を得て八十周年行事が実施されます。伝統や校風を礎にした誇りある山村女子高等学校として邁進いたします。今後とも、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

私の願い 「あいちけん」とやまむら魂」



山村国際高等学校
校長 石川 富夫 先生

「むらさき会だより」に文章を載せるのは、これが初めてです。そこで、私の願いを述べ、挨拶とさせて頂きます。

「あいちけん」とは、漢字で書くと、「愛知健」となります。愛情をもって生徒に接すれば、愛情溢れる若人に育つ。知恵をもって生徒に接すれば、知恵の溢れる若人に育つ。健康をもって生徒に接すれば心身共に健康な生徒に育つ。「あいちけん」は、教育の原理原則であります。愛情の溢れる生徒の育成、知恵の溢れる生徒の育成、心身共に健康な生徒の育成、これが、第一の願いです。

第二は、「やまむら魂」の徹底です。「やまむら魂」とは、何か。それは、本学園の創設者山村めみよ先生が、身をもって示された「一生懸命」の精神です。先生は、二十歳にして、「裁縫手芸伝習所・山村塾」を創設され、その後、幾多の困難を持ち前の不撓不屈の精神をもって克服され、今日の山村学園を築かれました。先生は、七十年間の教育人生を振り返られ、「とにかく一生懸命でした。それ以外の言葉は見つかりません。」と、述べられています。先生の生涯は、文字どおり「一生懸命」の生涯でありました。従って、「やまむら魂」とは、私は、「一生懸命」

の精神である、と考えます。私は、生徒一人一人が、「やまむら魂」を体得し、それぞれの「夢」を実現して欲しい、と願っています。

江戸時代の篤農家二宮尊徳は、「昔 蒔く木の実 大木となりけり 今 蒔く木の実 後の大木ぞ」と云う言葉を遺しています。天をつく大木と言えど、一粒の小さな木の実から生まれ、長い歳月をかけて大木に成長するのです。このことは、若人の教育に当たる私達に大きな勇気を与えてくれます。本校生が、「あいちけん」の人となり、「一生懸命」の人となり、文字どおり、天をつく大木に成長して

くれることを願い、私は微力ではありますが、全力を尽くして参ります。「むらさき会」の会員の皆様のおかげです。今後はとも母校発展のため、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、会員の皆様の益々のご健勝をご祈念申し上げます、挨拶とさせて頂きます。

山村国際高等学校 教務部長 野田 邦夫 先生

現在の山村国際高校の生徒数は、一年生が女子一八六名・男子十六名の計二〇二名の七クラス。二年生が、女子一四三名・男子十一名の計一五四名の六クラス。三年生が、女子一七二名・男子四名の計一七六名七クラス。総計女子五〇一名・男子三十一名の五三二名の二十クラスとなっています。

男子の数が少ないのは、現在は特進と選抜クラスにしか入学できない募集体系となっているためです。将来的には全てのコースに募集がかけられ、男女

の構成比率が半々の七〇〇名程が望ましいと考えています。

調査結果によると、入学してくる生徒のほとんどが進学を希望しています。卒業する生徒の九五%が、現役で上級学校へ進学し、残りの五%が予備校や就職者です。進学者の七〇%は大学や短大で、専門学校が二五%となっています。

生徒を取り巻く社会環境が大きく変化し、価値観や、学校や教育に対する要望も多様化し教育活動も、年々難しい状況にあります。一部報道では、青少年の非行や犯罪が大きく取り上げられるたびに、学校教育が問題視されています。

しかし、これらはほんの一部であろうとは思いません。本校の生徒の学習や部活動・学校行事等では、実に真面目に、真剣に取り組む姿があちこちに見られます。学年が進むにつれて成長の跡がはっきりと見られます。もちろん途中では、いろいろな出来事があります。時には怒ったり、じつくり話し合う事もあります。そこには、「長所を伸ばし、気がつかないところに気づかせる教育。」が、全職員一丸となって日々展開されています。

大規模校でない本校にあつては、全校生徒の顔と名前がわかります。授業に出ていなくても、どこかで関わりが持て、一緒に活動や話をする事ができます。これは、すばらしい事だと思っています。

私も、生徒と一緒にあって、授業や部活動や、いろいろな学校行事等、毎日明るく楽しい学校生活を送らせてもらっています。

編集後記

多くの皆様のご協力を得て「むらさき会だより・七号」ができました。ありがとうございます。

今年度は山村学園創立八十周年の年にあたり、数々の記念行事が行われました。

また、今年度からむらさき会顧問として、山村国際高等学校校長 石川富夫先生が就任されました。

来年の総会（五月三十日(日)）には、皆さんからたくさんの方に声をかけていただき、お目にかかれることを役員一同楽しみにしております。

むらさき会

平成十五年役員一覧

- 会長 田中 久子
- 副会長 伊藤 勲子
- 顧問 野島 康子
- 顧問 福島ミヤ子
- 顧問 山村 寛
- 顧問 下田 宏吉
- 顧問 石川 富夫
- 事務局 小林 豊子

むらさき会連絡先

山村女子高等学校

☎049-2255-3565

〒350-1113 川越市田町16-1-2

山村国際高等学校

☎049-281-0221

〒350-0214 坂戸市千代田1-2-23